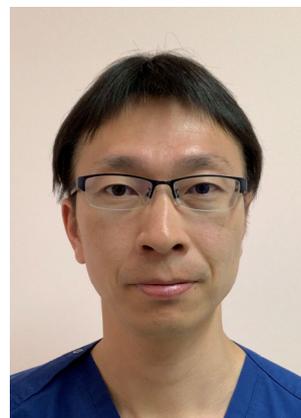


【巻頭言】

有意義な学友会活動を目指して

企画委員 辻居 賢一(短15回生)



新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大により、医療現場は緊迫の度を強めています。皆様におかれましても医療人として、日々職場でご尽力されていることと存じます。

ともあれ2月より、医療従事者へのワクチン接種が始まりました。高齢者や一般の方々へのワクチン接種も進んでいます。本誌が発刊されるころには、ワクチン接種にも目途が付き、長いトンネルの先の光が見えかけているのではないのでしょうか。新型コロナウイルスによる混乱が一日でも早く終息し、従来の生活が戻って来ることを祈ります。

さて、私が理事を拝命してから、早くも3期目に突入しました。理事を引き受けたきっかけは、兵庫支部の幹事会の帰り道、神澤前会長からお話を頂戴したことにあります。卒業から10年ほどしか経っていない私には、寝耳に水でしたが…、少しでも学友会のお役に立てればとの思いから、快く引き受けさせていただきました。理事を拝命する以前から、私は学園祭(大瑠璃祭)の「学友会相談コーナー」の運営(相談員)に携わってきました。理事への就任後も、出石企画委員長のもと企画委員を務めさせていただきました。卒業後も、毎年の恒例行事のようになっていました。しかし、去年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、残念ながら学園祭は中止となりました。感染状況次第では、今年の開催もどうなるかわかりません。

当初は学友会記念体育館前の休憩室で、先輩方と持ち込んだ地酒などを飲みながら、学生への相談を受けていました。しかし、学生さんからの相談件数は、至って少ない状態でした。相談件数が増えるように試行錯誤している間に、大学の施設も大きく様変わりしました。まず、相談コーナーの会場が、食堂付近へと移動しました。対象学生も、4回生から3回生へと変更となりました。最近では熱心な学生が多く、相談件数がかなり増えてきています。ベテランの相談員に加え、学生が相談しやすい若い相談員が必要となりました。

バランスを考えながら、20名程度の卒業生にご参加いただき、学生の相談を受ける体制も整えました。それでも、休憩や昼食をとれない年もありました。企画した私にとっては、嬉しい悲鳴でした。

卒業生にとってつらいのは、学内「禁酒」になったことです。しかし、彼ら学生にとって、アドバイスを参考に、就職活動や国家試験対策などを始めるきっかけとなっているようです。相談時は学生さんとの貴重なやりとりができますし、学友会室では世代を超えた交流も可能です。有意義な時間を過ごせることは、間違いありません。新型コロナウイルスが落ち着き、また学園祭が開催できるようになれば、大学の施設(環境)も以前にも増して活気を取り戻すことでしょう。皆様にご参加いただける日を心待ちにしています。

就任後は、学友会創設90周年記念祝賀会や2021年学友会総会(Web総会)などの大事な行事に、実行委員として携わることができました。この経験を通じて、「先輩方のご指導あつての学友会活動である」と改めて感じています。先輩方が築き上げた学友会を絶やさず、会員(卒業生)の皆様が親睦を図れる会を目指し、理事として今後も精進してまいります。

最後になりますが、学友会は診療放射線技師養成校の中でも一番大きな会となっており、交流や情報交換などの場に有効活用して頂きたいと思っております。また、各支部で開催される支部総会をはじめ、2年に1度の学友会総会にも是非ご参加ください。幅広い世代が親睦を図れば、学友会はこれまで以上に盛り上がることでしょ。若い世代の皆様のご協力が必要です。是非、ご協力のほどお願いいたします。

以上